小中一貫校は急がず　充分な検討を

福井　節子　議員

問 これまでの議論を通じて、小中一貫校が6・3制より優れた教育制度である論証は不充分で、保護者への説明も充分でない。

また、他の市内中学校区も本年度から小中一貫実践校として研究を開始していると広報されたが、保護者の中には知らない方もある。

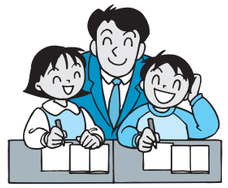
中学校から離れた複数の小学校との連携は難しく、他市の実践校では混乱を招いていると聞く。

市の教育行政の根幹に関わる問題であり、急がず市内全域での議論を尽くすべきだ。

答 主席教育次長

小中一貫教育の意義や取組み内容等につきましては、説明会や懇談会、市の広報、学校便り等で市民や保護者の皆様に知らせてまいりました。

中学校から離れた複数の小学校との小中一貫教育においても、今までの連携の取組みを整理しながらカリキュラム等を十分に検討して、9年間を見通した子どもの健やかな育ちを支える小中一貫教育を市内全域で取組んでまいります。



滞納整理の方針は

問 生活権を保証する丁寧な納税指導が必要だ。年金や売掛金は差し押さえしていないか。

答 総務部長

滞納整理は適正に実施します

差押さえは不動産や債権など、個人の財産となるものを対象として執行しています。滞納者には丁寧な納税相談に応じ、公平・平等の観点から引続き適正な納税指導に努めます。

問 扶養控除廃止は負担増で滞納増やす。国へ中止の要請を。

答 市長

市民の不利益とならないよう、全国市長会を通じ要望等の活動はしています。

その他の質問

◆安曇川平和堂移転に市は企業責任を果たさせよ

高島病院を成人病専科に

森脇　徹　議員

問 病院新築を目前にどんな医療機能を持つ中核病院にするか問われる。

①市国保加入者1万5千人の主な病別患者数は。

②糖尿病など成人病は患者の7割、市民の2割だ。健康推進行政と病院現場との連携確立を。

③糖尿病が治療も教育入院も市内で完結する診療体制が確立できたか。課題は。

④糖尿外来の非常勤医師に加え、入院教育できる常勤医師がどうしても必要だ。院長、市長は成人病克服の強い意思を京大医局に伝えきり、招へいの先頭に。

答 病院経営管理部長

新病院に向けて地域連携を強化します

市内医療機関や行政との連携を深め、画像診断や予防医学分野のネットワークを新病院建設後にはより一層充実したいと考えています。現在、糖尿病の地域連携パスを作成し、市内医療機関との連携、院内では看護師と管理栄養士が連携して糖尿病教室を定期的に開催しています。今後は教育入院など継続した診療体制を完結できるよう専門の常勤医師の確保に努めてまいります。

問 社会的背景が原因の引きこもり成人が増えた。

①実態と実数の把握は。

②支援活動する団体個人の把握と支援策は。

③相談支援窓口設置を。

答 企画部長

「ひきこもり少年」の実態把握と支援体制づくりを進めます

教育委員会の青少年課や福祉・就労関係部局と連携しながら、ひきこもり青少年の実態把握やワンストップ相談体制のあり方、就業支援等に対する体制づくりなどの検討を進めてまいります。

その他の質問

◆県市道右折溜まりのカラフル化と自歩道優先道路政策を

市勢の現状と今後の見通し及び振興策について

駒井　芳彦　議員

ドバイショックで市内の経済はまたもや大きな打撃を受けることとなる。市として緊急に取組まなければならないことは何かを見極めるためにも、市勢と振興策を再検証する必要がある。

市勢の現状と今後の見通し、振興策についてそれぞれ問う。

問 人口、若者定住策

答 企画部長

若者定住策を推進します

今後、本市の人口推移を予測すると、少子高齢化は益々進展し、20代～30代の急激な人口減少という事態に繋がることが懸念されます。そのため、定住相談員の設置や空き民家紹介システムの構築等、移住や定住を希望される人たちを受け入れる環境整備を進めていかなければならないと考えています。

問 農業産出額

答 産業循環政策部長

不況の逆風にめげず、地域振興に努めます

農業産出額は56億円で、農業者が減少し低下が懸念されます。

問 卸売・小売業年間販売額

答 卸売162億円、小売514億円で、年々減少しています。

問 製造業製造品出荷額

答 製造品出荷額は1、189億円ですが、不況による落ち込みが予想されます。

問 有効求人倍率

答 10月有効求人倍率0・41倍は前年比0・08の減で、依然厳しい雇用情勢です。

問 観光客入込数

答 20年の観光客数は420万人で、2年で2割の入込増です。

問 企業誘致策

答 県と連携して企業誘致に取組んでいますが、即時立地可能な用地を求める企業が多く、立地に至っていません。

問 観光振興策

答 観光資源を活用し事業者間連携を図りながら、宿泊促進や滞在型体験学習の振興を図っています。

なお、再質問で緊急に取組むべき項目を提言しました。

中小河川の整備、管理について

万木　豊　議員

問 市内には多くの1級河川や普通河川があるが、どの河川も土砂や雑草が繁茂し川としての機能が失われているように思うがいかがか。

普通河川は各集落が河川掃除をしているが、重機などを使用した場合の財政的支援はあるのか。

1級河川で雑木などが自生し、流水を阻害しているように思う。この点は強く県当局へ要望すべきと考えるがいかがか。

答 土木交通部次長

幅の狭い河川については、高島市まちづくり助成事業により、各自治会で整備をお願いしており、幅の広い河川は、整備効果の大きさなどを考察し、事業の推進を図ります。

深い河川の浚渫（しゅんせつ）等、人力では出来ない箇所については、重機のリース代を負担している場合があります。

土砂の堆積等が流水部を侵すことは、洪水時に危険が高まることから計画的に対策を講じるよう要望します。

土砂の堆積が目立つ市内の河川

不登校児童、若年者自立支援、就労支援について

問 少年センター『あすくる』には、相談や支援を受ける保護者や青少年が複数来所されている場合があるが、もっとプライベートが守られるスペースが必要ではないか。

答 主席教育次長

現在、相談者や支援を要する少年が増えてきたことから、新たな相談場所の確保が課題となっております。相談者のプライバシーに十分に配慮する必要から、安心して相談できる場所の確保を検討しております。

その他の質問

◆公用車での交通違反と事故の関係